（添付資料）

国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）
事業期間を通じた評価

国立大学法人静岡大学
国立大学法人浜松医科大学　学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の事業期間を通じた評価について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり評価結果をお示しします。
あわせて、本検討会の所見についても別紙のとおりお示しします。

記

C	当初の構想に沿った取組が行われておらず、十分な成果が得られているといえないことから、本事業の目的を達成できなかったと評価する。

（別紙）

国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の
事業期間を通じた評価

国立大学法人　静岡大学
国立大学法人　浜松医科大学

（検討会の所見）

○　両大学が法人統合によって新たな大学に生まれ変わろうという当初の理念を達成しようとの意気込みは、残念ながらうかがえなかった。当初の構想を踏まえつつ、両大学の強み・特色をいかにして伸長させていくのか、今一度原点に立ち返り、あるべき姿を考えていくことが求められる。

○　医療・医科学における研究成果の社会実装の基盤として静岡大学と浜松医科大学の連携・法人統合を推進する構想が採択され、支援が行われてきたと理解しているが、当初の構想がほとんど消滅したという印象を受けた。両大学それぞれの強み・特色の最大化をいかにして図っていくのか、当初の構想に対する取組、進捗を検証し、新たなビジョンを考えていくことも含め進めていくべきではないか。

○　これまでの静岡大学の静岡キャンパス、浜松キャンパス、浜松医科大学の関係を新しい2大学に再編し、静岡国立大学機構を設立することで静岡県との関係、静岡県全体に対するインパクト、教育研究上のメリットがどのように変わるのか、なお判然としない。
　医・工・情報を核とする浜松地区大学は現在のままであっても構想にある連携は十分に可能であるし、機構設立によって特に県東部へのインパクトと静岡地区での人材養成面がどのように変わるのか将来像をイメージすることがなお困難である。

○　浜松地区については連携の効果が出始めているが、静岡地区については、未来創成本部や新学部の設置などの将来構想が示され、改革の緒についたところである。今後、この将来構想が着実に実現されることを期待している。

○　両大学の改革構想を巡ってはこれまでいろいろな経緯があり、時間を要したものの、新たな法人統合の枠組みの形成に向けて、少しずつ歩みを進めていると評価できる。静岡大学における新学部構想はまだ具体性に乏しいものの、浜松医科大学との協働や、県内の他大学との連携も含めて、さらに検討を進めることが求められる。第４期中期目標期間にかけて、「雨降って地固まる」形で、静岡地区、浜松地区それぞれの強みを生かし、地域に貢献する形で改革構想が結実することを期待する。

次項あり

○　先行的に進められてきた浜松地区での医工連携を中核にした、大学連携による教育・研究・社会貢献の充実と発展へ向けた前進が見られた。静岡大学における文理融合の新しい学部の将来構想については、浜松医科大学の協力も得て進められることを期待したい。KPI に関しては、学部・大学院・社会人教育段階のオンライン教材の導入科目数に関して、令和2年度は 10 倍強の実績を示しているが、これはコロナ禍への対応で実現されたもので、教育におけるデジタル化の有用性を示したものでもある。外部のコンサルタントを活用した法人統合による両大学の業務運営の検証も行われているが、デジタル化、さらに進んで DX の観点からの検討も必要であろう。

本事業における改革への取組や DX の観点も踏まえ、両大学の強み・特色をいかにして高めていくのか、そのための組織の在り方としてどうあるべきか、この点を再度認識の上、法人統合が進められていくことを期待する。